

一笑懸命

柴田町立船迫中学校
3学年だより
文責：3学年主任
2019/06/26 NO. 16

“県大会出場”とは…

中総体、郡陸上大会を終え、夏休みに行われる県大会に出場する人たちも決まりました。先日、船迫中学校のある卒業生が3年生の中総体が終わった直後に書いた作文を見つけました。ぜひ、読んでみてください。

勝つということ。終わるということ。

「終わるかもしれないんだよ！」それはこの2週間ずっと言われてきた言葉。今日までの私はその意味を理解できていなかった。

中総体。もちろん必死でやった。私たちは全勝した。嬉しかった。けど…勝つたびに相手チームが泣いていた。なんだか素直に“勝ち”を喜べなかった。でもそれが勝ったチームの責任なんだ、とも思った。母に言われた言葉、「勝つってことは、少なくともこの柴田郡のチームの想いを背負うってことなんだよ。」その意味がなんとなくわかった。

そして夜、どんどんわかっていく迫中の結果。なんだか友達とのメールもうまくできなかった。自分は勝ったけど友達は負けた。それでも私は“引退”の意味がわからなかった。

今日の部活の練習。いつもどおりのメニュー。でもいつもと違うのはグラウンドにいるメンバー。他の部の3年生がいない。そんな中でやる部活はなんかさみしい。いつもいる野球部の3年生がいない。テニス部の声も聞こえない。いっぱいいるサッカー部も少ない。そこで私は“終わり”、“引退”の意味がわかった。そう考えると、優勝もなんだか嬉しくなくて、さびしくて涙が出てきた。絶対、私なんかより努力して頑張ってきた人がいるって、私なんかより県大会に行った方がいい人がいるって…。

でも現実是不変。だから私は1ヶ月半という月日でやれるところまでやらないといけな。私たちは柴田郡の負けたソフトボールチームの想い、迫中生の想いを背負って県大会に行く。でもいつか私たちにも引退がくる。だけど、「どうしてあんなチームに負けたの？どうしてあの部活が行って、私たちが行けなかったの？」と思われぬように頑張る。みんなの想いを背負って県大会で活躍する。

もちろん優勝はうれしいことです。でも勝てなかった人たちの気持ちもわかります。もっともっと部活をしたいのに、それができない悔しさ、寂しさ…。勝ち残った人は、続けたくても続けられなかった人の分まで頑張らなければなりません。そして、勝った人も負けた人も、改めて考えておかなければならないことがあります。今のこの中学校生活もやがて終わるということを…。そのときに後悔しないよう、1日1日の学校生活を大切にしていかなければならないのです。(主任)